

数研 AGORA

▶国際収支関連統計の見直しについて
 / 日本銀行国際局国際収支課……1
 ▶世界と日本のおもなできごと(2013.
 9～2014.8) / 数研出版編集部……3

▶デカルトの科学論を、どう教えるか
 / 兼松正人……5

No.62

この用紙は、再生紙を使用しています。

国際収支関連統計の見直しについて

日本銀行国際局国際収支課

1. 国際収支統計とは

国際収支統計(注1)は、一定期間における一国のあらゆる対外経済取引を体系的に記録した統計です。居住者と非居住者との間(日本とそれ以外の国・地域との間)で行われた取引の内容に応じ、以下のように分類して計上します。

- ・商品の輸出入、貨物運賃等のサービス料や利子・配当金の受払、消費財の無償援助等を記録する「経常収支」。
- ・対外金融資産・負債の増減に関する取引を記録する「金融収支」。
- ・鉱業権・排出権の売買や債務免除等を記録する「資本移転等収支」。

(注1) 関連統計として、本邦対外資産負債残高(対外金融資産・負債のある時点の残高を表す統計)があります。本稿では、国際収支統計と関連統計をまとめて「国際収支関連統計」と呼んでいます。

2. 国際収支関連統計の見直しについて

国際通貨基金(IMF)は、国際比較を可能とする観点等から、国際収支関連統計の作成・公表に関する国際基準(マニュアル)を公表しています。わが国の統計は、1996年取引計上分より1993年に公表された国際収支マニュアル第5版(The Fifth Edition of the Balance of Payments Manual, BPM5。以下では、BPM5と表記します)に準拠して作成・公表されてきました。

その後、BPM5公表から相応の期間が経過する中で、1990年代半ば以降の通貨危機等の経験を踏まえて、各国経済の脆弱性を分析するに当たり、対外債権債務に関する残高データへのニーズ等が高まりました。このこと等を受けて、IMFはBPM5を改訂し、2008年に同マニュアルの第6版(The Sixth Edition of the Balance of Payments and International Investment Position Manual, BPM6。以下では、BPM6と表記します)を公表しました。

BPM6は、次のような特徴を有しています。

- (1) 対外資産負債残高、金融・資本関連統計の重視。
- (2) 項目の共通化や部門分類の拡充による国民経済計算(System of National Accounts, SNA。以下では、SNAと表記します)(注2)との整合性強化。
- (3) 企業構造や生産体制のグローバル化や、金融取引の高度化等を的確に把握するための環境整備。

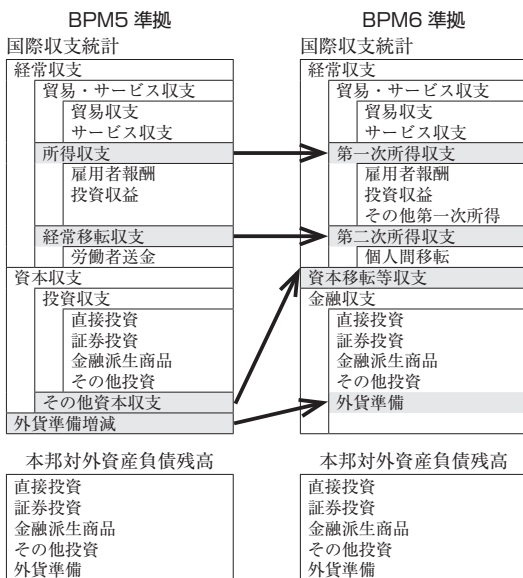
(注2) 一国の経済の状況について、生産、消費、投資といったフロー面(GDP等)や、資産・負債といったストック面を体系的に記録するための国際基準です(国際収支統計は、GDP算出の際の基礎データにもなっています)。

財務省・日本銀行は、わが国の国際収支関連統計を見直し、2014年1月取引計上分よりBPM6準拠統計に移行しました。以下、ポイントを説明します。

3. 主要項目の組み替え及び名称の変更

BPM5 準拠統計とBPM6 準拠統計では、その構成について大きな変更はありません。ただし、BPM5 準拠統計の「資本収支」と「外貨準備増減」を統合して「金融収支」としたほか、「資本収支」から「その他資本収支」を切り出して、「資本移転等収支」とし、「經常収支」や「金融収支」と並ぶ大項目に変更しました。また、「所得収支」と「經常移転収支」について、名称をSNAに合わせて「第一次所得収支」と「第二次所得収支」に変更しました。

図表1. 勘定体系(主要項目の組み替えと名称の変更)



4. 金融関連項目の拡充

部門分類の細分化等を行いました。これにより、生損保や証券会社等、銀行以外の金融機関の動向把握等、より詳細な分析が可能になりました。

図表2. 部門分類の細分化

| 3部門 (BPM5 準拠) | 5部門 (BPM6 準拠) |
|------------------|--|
| 公的 | 中央銀行 一般政府 |
| 銀行 | 預金取扱機関(銀行、信用金庫等) |
| その他 | その他金融機関(生損保、証券会社、投資信託委託会社等) その他(一般事業法人、個人等) |

5. 表記方法等の変更

BPM5 準拠統計の「投資収支」および「外貨準備増減」では、資金の流出入に着目し、流入をプラス

(+)、流出をマイナス(-)としていました。BPM6 準拠統計の「金融収支」では、資産・負債の増減に着目し、資産・負債の増加をプラス(+)、減少をマイナス(-)とするよう変更しました。

図表3. 符号表示の変更

| | 投資収支及び外貨準備増減 (BPM5 準拠) | 金融収支 (BPM6 準拠) |
|-----|---------------------------|-------------------|
| 資産側 | 資金流出=資産増加 資金流入=資産減少 | (-) (+) |
| 負債側 | 資金流入=負債増加 資金流出=負債減少 | (+) (-) |

国際収支統計に係る恒等式は、「經常収支+資本移転等収支-金融収支+誤差脱漏=0」になります。

6. 計上基準や集計方法の変更

主な変更点として、所有権移転原則の徹底が挙げられます。具体的には、財貨の加工や修理を目的とした輸出入は所有権が移転していないことから「サービス収支」に計上する一方、三国間貿易(日本の税関を通過せず特定の国から別の国に商品を輸出する取引)等、所有権が移転しているものは「貿易収支」に計上する扱いに変更しました。

このほか、特許権・著作権の売買の計上項目を「その他資本収支」から「サービス収支」に変更する等の見直しを行いました。

7. おわりに

国際収支統計は、貿易取引だけではなく、その裏側にある金融取引等、一国の対外取引を網羅的に把握することができる唯一の統計です。今回の見直しによって、より詳細な部門別分析やほかの統計との比較も容易になりました。統計の基本的な構成を把握したうえで、ユーザーの方々がこれらのデータを活用することで、わが国の対外経済取引の現状への理解を深めて頂けると思います。

なお、関連資料は、財務省や日本銀行のホームページに掲載しておりますので、ご利用ください。

◎日本銀行ホームページにおける国際収支統計関連情報

- ・統計の構成や計上方法等の解説
<http://www.boj.or.jp/statistics/outline/exp/exbps6.htm>
- ・見直しの詳細や、BPM6準拠統計と連続性のある過去の時系列計数等
http://www.boj.or.jp/statistics/br/bop_06/index.htm
- ・時系列統計データ(統計別検索の「国際収支・貿易関連」を参照)
<http://www.stat-search.boj.or.jp/index.html>